

## はじめに

本報告書は、令和 4 年度に実施した「県民栄養調査」及び「子どもの食生活状況調査」の結果を取りまとめたものです。

「県民栄養調査」は、健康増進や生活習慣病予防の推進を図ることを目的に県民の皆様の健康や栄養の状態等を把握するため、昭和 54 年から 5 年ごとに実施しています。今回の調査については、前回の平成 26 年度調査から 8 年ぶりに実施しました。調査結果は、県の健康増進計画である「健やか山梨 21（第 2 次）」をはじめとする各種計画の目標指標の進捗管理、これまでの取組の評価と今後の健康施策の展開に向けた現状把握や指標の検討を行うための基礎資料としています。

また、平成 16 年度から県民栄養調査に加え実施している「子どもの食生活状況調査」については、小学生・中学生・高校生を対象に、健康及び食習慣等についての実態を把握するものです。

本県の健康寿命は、全国トップクラスを維持しています。これは、これまで培ってきた県民の健康意識やさまざまな生活習慣の成果によるものと考えております。しかし、人生 100 年時代といわれ、医療や介護を必要とする者が今後ますます増えると見込まれる中、早期からの生活習慣病の発症及び重症化の予防のために取り組みが必要となる働く世代や子育て世代などにおいて、自身の健康を気遣うことが難しい状況にあり、関係機関によるアプローチが十分行き届いていないという実態があります。

健康寿命の延伸・健康格差の縮小のためには、健康づくり分野のみならず、幅広い分野と連携しながら、自然に健康になれるまちづくりをはじめ、個人の健康を支える社会環境の質の向上に一層力を入れて取り組む必要があります。さらに、現在の健康が将来の自分や次世代（子ども）の健康に影響を及ぼすことから、ライフコースアプローチの観点で、より一人ひとりに寄り添ったアプローチが重要となってきます。

これらの取り組みの推進にあたっては、行政だけの力では達成できません。関係団体や企業、NPO 法人、学術機関、地区組織など、県民一人ひとりの力を結集し、オール山梨での取り組みが求められます。

本県は、健康を自覚している人が多いこと、65 歳以上の就業率が高く、役割や責任をもって生活している人が多いこと、愛育班発祥の地で愛育班活動や食生活改善推進員による活動など人と人とのつながりが強いこと、人口 10 万人あたりの保健師数が高く、地域の実情にあった保健活動を展開していることなどの強みがあります。

「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」を実現するため、誰一人取り残されることのない包摂性のある社会づくり、医療・福祉に関する不安の解消を通じた活力ある地域づくり、地域を担う人材の育成に取り組む必要があります。オールやまなし体制で健康寿命の延伸に向けた健やか山梨 21 を推進するため、今回の調査結果を健康づくりの資料として有効に活用していただければ幸いです。

調査の実施に多大なる御協力をいただきました県民の皆様をはじめ、山梨学院大学健康栄養学部の皆様、関係市町村、関係者の皆様方の御尽力に対しまして、深く感謝申し上げます。

令和 6 年 2 月